

侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生にご注意ください！

令和2年3月16日
京都府病虫害防除所
京都府農林水産部農産課

生産園地において本種を見つけた場合には、直ちにお近くの農業改良普及センターまたは病虫害防除所までご連絡ください



クビアカツヤカミキリ♂成虫
浦野忠久氏（森林総合研究所）提供



クビアカツヤカミキリ幼虫
浦野忠久氏（森林総合研究所）提供

- ◆ 関東、中部、近畿、四国地方の10府県のサクラ、モモ、ウメ等で侵入害虫クビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。
- ◆ 京都府内での発生は確認していませんが、隣接する大阪府、奈良県では確認されており、今後、京都府内でも発生する可能性がありますので、発生に十分警戒してください。

■ 成虫

原産地は中国。体長は、約2.5～4センチ。
全体的に光沢のある黒色で、胸部は赤色です。

■ 寄主作物

モモ、ウメ、カキ、サクラなど

■ 生態と被害状況

- (1) 幼虫がモモ、ウメ、サクラなどの生木の内部を食害し、樹勢を低下させます。その際、うどん状のフラス（木くず）を排出します（3～10月頃）。**被害が激しい場合は、枯死に至ることもあります。**
- (2) 幼虫は、幹の中で2～3年かけて成長し、蛹となります。
- (3) 6月中旬～8月上旬頃にかけて成虫となり幹の外へ脱出します。



幼虫が排出する
うどん状のフラス



幼虫が食害した被害樹断面



成虫の脱出痕
(羽化した跡)

■防除対策

- (1) 5～6月頃、樹幹をよく観察し、フラスを確認した場合には、成虫の発生時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。
成虫を見つけた場合は捕殺します。
- (2) **幼虫は登録薬剤（表1）を用いて防除**します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、**薬液が幼虫に十分かかるように**します。
- (3) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、**成虫の発生時期前（9～5月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを2mの高さまで樹幹に巻き付け（密着させないように）、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺**します。



加賀谷悦子氏（森林総合研究所）提供

幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎ、周辺への被害拡大を抑えることができます。伐倒した樹はすぐに焼却もしくはチップ化し、地際部に幼虫が残っている可能性があるため、切り株は抜根などの処理を行います。

■登録薬剤 ※

表1 もも、うめ、かき、なしでクビアカツヤカミキリの防除に使用できる薬剤(令和2年2月7日現在)

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	農薬の総使用回数	
もも	3A	ベニカカミキリムシエアゾールロビンフッド	かきりん類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 10回以内(噴射は5回以内、散布は5回以内)	
	-	バイオセーフ		木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	-	-	
	1B	スプラサイド水和剤		希釈倍率 1500倍	散布	収穫21日前まで	2回以内	DMTPを含む農薬の総使用回数 4回以内 (200倍希釈散布は2回以内、1500～2000倍希釈散布は2回以内)
		スプラサイドM		200倍	樹幹部及び主枝に散布	収穫60日前まで		シクランプロールを含む農薬の総使用回数 2回以内
	28	テツパン液剤						3回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	チャトキサムを含む農薬の総使用回数 3回以内
モスピラン顆粒水溶剤		アセタムプリドを含む農薬の総使用回数 3回以内						
うめ	1B	スプラサイド水和剤		1500倍	収穫14日前まで	2回以内	DMTPを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	4A	アクタラ顆粒水溶剤		2000倍	収穫7日前まで	2回以内	チャトキサムを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	22B	アクセルフロアブル		1000倍	収穫前日まで	3回以内	メタルミゾンを含む農薬の総使用回数 3回以内	
	-	バイオセーフ		木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	-	-	
かき	3A	ベニカカミキリムシエアゾールロビンフッド	かきりん類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 8回以内(噴射は5回以内、散布は3回以内) 7回以内(噴射は5回以内、散布は2回以内)	
なし	1B	トラサイドA乳剤	かきりん類	希釈倍率 200倍	樹幹部に十分散布	5回以内	マラソンを含む農薬の総使用回数 5回以内(休眠期は1回以内) MEPを含む農薬の総使用回数 6回以内	
果樹類	-	パイオリサ・カミキリ		使用量 1樹当り1本	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	成虫発生初期	-	

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee(殺虫剤抵抗性対策委員会)がとりまとめた分類コード

※ 農薬の選択に当たっては普及センター、JA等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。
なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を確認してください。

■問い合わせ先

(別紙を参照)

■防除対策

[サクラ等に使える薬剤記載版]

(1) 5～6月頃、樹幹をよく観察し、フラスを確認した場合には、成虫の発生時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。

成虫を見つけた場合は捕殺します。

(2) **幼虫は登録薬剤（表1）を用いて防除**します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、**薬液が幼虫に十分かかるように**します。

(3) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、**成虫の発生時期前（9～5月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを2mの高さまで樹幹に巻き付け（密着させないように）、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺**します。



防虫ネットの設置

加賀谷悦子氏（森林総合研究所）提供

幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎ、周辺への被害拡大を抑えることができます。伐倒した樹はすぐに焼却もしくはチップ化し、地際部に幼虫が残っている可能性があるため、切り株は抜根などの処理を行います。

■登録薬剤 ※

表1 サクラでクビアカツヤカミキリの防除に使用できる薬剤(令和2年2月7日現在)

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	農薬の総使用回数			
さくら	3A	園芸用キンチョールE	クビアカツヤカミキリ	【専用ノズルつけかえ方式】容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	-	-	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数			
				【2ウェイノズル方式】折り置まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。			-	-		
	4A	ウッドスター		樹幹注入	-	-	-	3回以内	ジネフランを含む農薬の総使用回数	
		アトラック液剤							新葉展開後～落葉前まで	5回以内
		モスピラン顆粒水溶剤							幼虫発生前～幼虫発生期	チアトキサムを含む農薬の総使用回数
									発生初期	3回以内
	マツグリーン液剤2	-		希釈倍率	5回以内	アセチムプロトを含む農薬の総使用回数				
				2000倍	散布	5回以内	5回以内（樹幹注入は1回以内）			
	22B	アクセルフロアブル		200倍	-			-	6回以内	メタフルゾンを含む農薬の総使用回数
				50倍		食入孔に注入	6回以内			
28	ダブルトリガー液剤	1000倍	散布	成虫発生直前～成虫発生期	-	6回以内	シクラニプロールを含む農薬の総使用回数			
		100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	発生初期			2回以内			
さくら、食用さくら(葉)	-	バイオリサ・カミキリ	-	-	-	-	シクラニプロールを含む農薬の総使用回数			
		バイオセーフ					木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	2回以内	
樹木類(伐倒木)	1B	パークサイドF	カミキリムシ類	本剤をそのまま伐倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400～600mlの割合で散布する。	-	-	MEPを含む農薬の総使用回数			
		パインサイドS油剤C パークサイドオイル		希釈倍率			-	-		
		40倍～60倍		本剤の所定希釈液(灯油で希釈)を伐倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400～600mlの割合で散布する。						
樹木類	3A	スミパイン乳剤	カミキリムシ類(スキカミキリを除く)	50倍～150倍	散布	伐倒・風倒直後樹皮下及び材内生息期	MEPを含む農薬の総使用回数			
		ベニカカミキリムシエアゾール ロビンフッド		カミキリムシ類	-	-	-	6回以内	成虫の発生初期又は直前	
樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	6回以内		フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数							

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee(殺虫剤抵抗性対策委員会) がとりまとめた分類コード

※ 農薬の選択に当たっては普及センター、JA等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。

なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を確認してください。

■問い合わせ先

(別紙を参照)

クビアカツヤカミキリの疑いのある害虫発見時の問い合わせ先

■生産園地で発見した場合

公所名	電話番号
京都乙訓農業改良普及センター	075-315-2906
山城北農業改良普及センター	0774-62-8685
山城南農業改良普及センター	0774-72-0237
南丹農業改良普及センター	0771-62-0665
中丹東農業改良普及センター	0773-42-2255
中丹西農業改良普及センター	0773-22-4901
丹後農業改良普及センター	0772-62-4308
病害虫防除所	0771-23-9512

■森林で発見した場合

公所名	電話番号
京都林務事務所	075-451-5724
山城広域振興局森づくり推進室	0774-21-3450
南丹広域振興局森づくり推進室	0771-22-1017
中丹広域振興局森づくり推進室	0773-62-2586
丹後広域振興局森づくり推進室	0772-62-4306